

令和2年度第3回北名古屋市行政改革推進委員会 会議録

○ 会議概要

1 あいさつ

2 議題

事務事業の見直しについて

<事務局>

参考資料 令和2年度事務事業の見直し（追加分）【11月5日内容現在】の説明

<会長>

公共施設について、合併の名残で2か所あるものを統合するという観点は良い。

小学校に英語専科教師を4人確保できるのはすごいことである。それに伴いALTの削減することはやむを得ないことであると思う。

<委員A>

西図書館を利用していた人たちが不便になるため、本の受取及び返却を可能にすることはできないのか。

学び支援事業についてはタブレットが導入されたことで相殺できるものではない。発達障害の子の対応等、学び支援講師の必要性は高い。

<事務局>

西図書館については、本の受取及び返却を可能にするように検討している。

学び支援事業は小学校は縮小するが、中学校は縮小しない。可能であれば続けたい事業ばかりであるが、GIGAスクールの優先度が高い等、他の事業との兼ね合いの中で縮小案が固まっていた。

<委員B>

宿日直で受け付ける届出等の件数はどれくらいあるのか。

<事務局>

西庁舎が約600件、東庁舎が約300件。

<委員C>

小牧市では平成元年から宿日直業務は全委託している。職員が安価な宿日直手当で土日祝日に勤務することは働き方改革の観点から考えると逆行している。経費は掛かるが全委託を検討すべき。

<事務局>

東庁舎の日直が廃止されることで職員の負担も軽減される。将来的には全委託も考えている。

<委員C>

西図書館を利用していた高齢者たちの交通手段を考えなければいけない。

<事務局>

高齢者のタクシー券、きたバス等の全体の取り組みの中で考えていく。

<委員C>

タブレットは教材の一つである。人が人を育てるものであり、学び支援講師の代替となるものではない。

<事務局>

事業としてはどれも続けたいというのが本音であると思う。その中でも事業の優先順位を考えて廃止の検討をしなくてはならない。学び支援事業については、GIGAスクール事業の方が優先順位が高いということだと思う。

<委員D>

見直しの方向性について概ね賛成である。

ただし、見直しの際に注意すべきこととして、将来的に市にどれだけマイナスになるかを考えるべきである。特に子どもの教育に関する事業を削減することで将来に影響が出る懸念される。短期的に支出を減らせても魅力のない市になってしまえば意味がない。長期的な視点で検討を進めてほしい。

一方で市の単独の上乗せ補助のような手厚すぎる補助金について積極的に見直していくべきであると感じた。

<委員E>

市の魅力となるものは残し、若い世代にメリットを与えてほしい。そういった観点で西図書館の跡地を有効的に活用できるように検討してほしい。

<委員F>

図書館を廃止することは、学習面でマイナスイメージになる。ソフト面で補う工夫が必要。低予算で実現できるソフト事業を考えて提案していくべきである。スタートアップ企業や若い起業家の活用も検討して欲しい。

また、教育面など将来を担う子どもたちへのフォローは必要だと感じる。中長期的な視点で市の魅力を大事にしてほしい。

<委員C>

企業立地促進にはお金が必要。企業誘致は将来のリターンに繋がる。

<事務局>

沖村西部地区の誘致が埋まったため一区切りつけるということ。今後も状況に応じて復活する可能性もあると思う。

<会長>

委員からの意見のとおり教育面については、丁寧に取り組んでいただきたいと思います。様々な意見がございましたが、今回議論した事務事業の見直しについて皆様ご了承いただけますでしょうか。

※全員了承

前回に引き続き、見直しの全体の方向性について皆様にご了承いただきましたので、今後も引き続き適正に進めていただきたいと思います。

次回の委員会で答申内容を決定する必要がある。答申案については事務局と調整を行い、委員会当日に皆様にお示しさせていただく形でよろしいか。

※全員了承

これにて委員会を閉会とする。

【閉会】

配布資料	参考資料 令和2年度事務事業の見直し（追加分）【11月5日内容現在】
------	------------------------------------